

ふたつの“まちの理学療法士” ～こんなことをしています。～

鈴木和江先生

北茨城地域自立支援センター（理学療法士）

内藤幾愛先生

訪問リハビリテーション烏山（理学療法士）

筑波大学非常勤講師

令和2年5月22日（金）以降にネット配信

“まちのお医者さん”である“プライマリ・ケア医”のそばで働く理学療法士が、北茨城市（地域リハビリテーション活動支援事業）と土浦市（訪問リハビリテーション）にいます。

「まだリハビリ中で家に帰って来られない。」「入院していたときはリハビリをやってもらえた。」これは、よく耳にする会話です。リハビリテーション専門職と位置づけられる理学療法士の仕事内容は、4文字の「リハビリ」に包含され、双方のイメージの中で会話がなされることが多いです。そのおかげで、地域住民にも理学療法士のイメージは幅広く浸透しました。これから、“病院のリハビリ”だけではなく、地域住民の生活を支えるメンバーとして活動を広げるためには、地域住民や保険・医療・福祉の関係者、そして指示（処方）を出される医師、特にプライマリ・ケア医に地域の理学療法士の具体的な活動内容を伝えることが必要と考えます。

今回は、プライマリ・ケア医のそばで活動をする、ふたつの“まちの理学療法士”が何をやっているのかを事例から紹介します。

今回の勉強会では、北茨城地域自立支援センターの鈴木和江先生、訪問リハビリテーション烏山の内藤幾愛先生に「ふたつの“まちの理学療法士”～こんなことをしています。～」の演題で、お話していただく予定です。筑波大学 e-learning で受講希望の方は、5月18（月）までにメールにて下記までご連絡下さい。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医2単位と認定薬剤師1単位が取得できます。またフロンティア医科学専攻の医科学セミナー4（プライマリ・ケア）の一部となっています。

連絡先：筑波大学医学医療系 福祉医療学

柳 久子 TEL&FAX：029-853-3496

e-learning受講希望連絡先 ms00d198@md.tsukuba.ac.jp